

■今月の特選句

2015年9月

扇風機女医の太腿ちらつかず

柳澤京子

扇風機は無意識だが、女医は診察に夢中で太腿が見えてしまっていることに気が付かぬ。その可笑しさが好ましい。「好色の患者に配慮扇風機」。

夏くさや兵共が靴の中

小林英昭

「夏くさ」に「夏草」と「夏臭（なつくさ）」を掛けているところが実に巧み。パロディーには頭の柔らかさと肩の力の抜けていることが必須。

暑いといふ言葉のほかを忘れけり

新島里子

口をついて出るのは「あつい」の三文字だけというわけですね。「寒いてふ言葉のほかを忘れけり」。これは、選者がかつて北極点にて作句。

老鷲のけきよが訛っていませんか

百千草

鷲も鳴くのはオスだけですね。メスにアピールするためにわざと「田舎者」を装ったのでしょう。「ケーキョクは徒労か老鷲の努力」。

点滴は雨漏りに見え梅雨に入る

門屋 定

病院での点滴ならばオンボロ病院ということに。しかし、雨水が点滴に混入するといかんなあ。「点滴の天敵梅雨の雨漏りは」。

夜の空大散財や大花火

酒井鹿洋

一発一万円とか五万円とかサイズによって異なるが、散財には違いない。しかし、瞬間に散財するからこそ最大の贅沢でもあるね。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

駐在はオレオレ詐欺師村芝居 ・・・前歴だけにさすが名演	田村米生
電源を抜かれし如く子は昼寝 ・・・母の団扇が眠たく動く	原田 曄
屍のポーズをしたる夏座敷 ・・・たまにそのまま黄泉路をたどる	田中 勇
泳げても泳げなくても夏海 ・・・サメのうじやうじやおつかない海	稲沢進一
精虫我卵子目前昼寝覚 ・・・妊る前に目覚めるが技	松井まさし
かまぐらのはとは崩さるかき氷 ・・・トンネルにしてみても良かった	金澤 健
盆の月父と争ふ家具屋姫 ・・・吾ら争ふ資産はあらず	伊藤浩睦
ここからは大人の時間キャンプの灯 ・・・つまらん噂話をするか	柳 紅生
三本の矢しかと見つめてサイダー飲む ・・・安倍醸造のただの泡水	奥脇弘久
草取りの腰のくの字をしの字にす ・・・苦の字死の字の意味にはあらず	久我正明

焼かずんば治らぬ頑固生身魂

・・・馬鹿は死ななきや治らないから

加古すすむ

蠟の列蟬を神輿に通りけり

・・・蝶は静かに浮かべるものを

川島智子

この皺が物を言う土用の梅干し

・・・失敗とてもしよつばい出来で

鈴木和枝

■今月の滑稽句

- | | |
|--|-------------------------|
| 【佳作】 舗装路で干物になりしみみずかな
投資せし甥姪育ち蚊帳の外
かあちゃんの痲癩多き夏休み | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 炎昼や野放図なりき草の蔓
蟬止まる立木と見しかわが身体 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 大西日入りを流りて空の裾 | 青山桂一 |
| 【佳作】 昼寝してゐる虎の尾を踏まぬやう
無駄口を叩いてからの冷奴
Tシャツは汗が隠せぬから嫌ひ | 赤瀬川至安
赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 【佳作】 マスゲーム楽しむさまに稲雀
流燈の未練残さずそそくさと
ややこしき話さておき月見豆 | 麻生やよひ
麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 蝮酒どうぞどうぞと言はれても
香水のきつい女と昇降機
なんとなく元気なくして熱帯魚 | 有吉堅二
有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 バッグからハンバーガーの匂う秋
赤とんぼ後ろへ飛ばず宙返り
子もり役ゲーム機がする盆踊 | 粟倉健二
粟倉健二
粟倉健二 |
| 祈ること多き八月迎へけり
足弱な母に太めの瓜の馬 | 飯塚ひろし
飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 争うて引きたる水を落しけり | 飯塚ひろし |
| 匙加減ひとつで崩すかき氷
ゆるキャラのキャラとなりきる玉の汗 | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 鳴きやんで息を継ぎ足す蟬時雨 | 井口夏子 |
| 月に雲孕んだ猫のパパはだれ？
蟬はせみ蟻はありのまま生涯現役 | 池田亮二
池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 すててこがショートパンツをやつかめり | 池田亮二 |
| 【佳作】 寝冷なのか大腸癌かこの下痢は
炎天下運悪く乗る弱冷車 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 エゴイストではありませんエゴの花
初ヤモリ卍で忍ぶ天の窓
夏祓ひ無限マークの足の跡 | 伊藤洋二
伊藤洋二
伊藤洋二 |
| 海の日や海には行かず山に来て | 稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 羽抜鳥己が健脚知らぬとて | 稲沢進一 |
| 台風の隠しようなきプライベート | 井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ |
| 【佳作】 台風や到来早し季語狂ふ
生身魂野球放送つけいびき | 井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ |
| 【佳作】 猫の血を吸ひたる蚊なり叩くなり
その殻に苦節の思ひ残し蟬
セミシャワー朝からワシャワシャ浴びてゐる | 上山美穂
上山美穂
上山美穂 |
| 【佳作】 読本のハナハトマメや敬老日
施餓鬼会の光明真言おんあぼきや
見送りの汽車待つ駅の花氷 | 氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 蝉揃ひ踏みして迫る暑さかな
猫に遊ばれ真昼間の竹夫人
嫁ぐ日の近き浴衣を縫ひにけり | 梅岡菊子
梅岡菊子
梅岡菊子 |
| | 生身魂煙のやうな髪まとめ
丑の日の細身となりし鰻かな | 越前春生
越前春生 |
| 【佳作】 | 蠅と言ふ字が羽はえて飛びさうな | 越前春生 |
| | 夏祭り恋も金魚も掬えない
あぶく銭掴んだ筈の昼寝覚
猛暑日や睨みが緩む仁王像 | 岡野 満
岡野 満
岡野 満 |
| 【佳作】 | 猛暑日の脱ぐだけ脱いで残るは毛
あの尻を包みし水着手のひらに
夏の日の影濃き吾やまだ生きる | 小川鮎太
小川鮎太
小川鮎太 |
| 【佳作】 | 昼寝覚ドラマはすでに大団円
蟻地獄専守防衛貫きて | 奥脇弘久
奥脇弘久 |
| 【佳作】 | まだ続く車内の化粧秋暑し
揚々と基敵路地を新酒提げ | 加川すすむ
加川すすむ |
| 【佳作】 | 猛暑なり電話も鳴らぬ家に居る
あの日の薙がスイーツになり終戦日
牛鬼にかぶりつかれて目覚めけり | 加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子 |
| 【佳作】 | 客帰るあれは日傘の開く音
久しぶり土用鰻は日本産 | 門屋 定
門屋 定 |
| 【佳作】 | 揚花火火の粉付きなる特等席
盗塁も犠打も人生甲子園 | 金澤 健
金澤 健 |
| 【佳作】 | 逢ひにゆく子育て中の青葉木菟
美智子妃の好める蓮を見に行かむ | 川島智子
川島智子 |
| 【佳作】 | 甚平や足して二で割り角立てず
投げキッスもらい球児に夏来る
名将のぼやき届かぬ暑さかな | 菅野あたる
菅野あたる
菅野あたる |
| 【佳作】 | 反芻の牛秋草のよく匂ふ
どうしても上しか向かぬ扇風機 | 久我正明
久我正明 |
| | 掲げれば象のつもりの象鼻盃 | 工藤泰子 |
| 【佳作】 | 舟虫に笛を吹きたしハメルンの
喧騒の田舎の銀座蟬時雨 | 工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 | 台風をかき分けテレビ実況放送
荷を持たぬ蟻の行列地を這えり
おい母さん茗荷の味噌汁飲んだかなア? | 小泉花子
小泉花子
小泉花子 |
| | 芸人に浮き沈みあり胡蝶蘭 | 小林英昭 |
| 【佳作】 | 鯉のぼり風の食べ放題が好き | 小林英昭 |
| | 戦争を知らぬ議員の蝉しぐれ | 酒井鹿洋 |
| 【佳作】 | 酷暑には勝てず早朝蝉しぐれ | 酒井鹿洋 |

	夏バテで昼夜逆転昼顔よ 夏休み蟬のぬけがら掃き集め	佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	車内三十度冷暖房逆熱中症	佐藤義子
	日本中なめ尽したる夏台風 蝉時雨夕立の中ゆく如し	佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	新国立見直し安保強行す	佐野萬里子
	夏掛や流転の末の成れの果て 諸掘りや根掘り葉掘りの噂して	下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	極端に曲がってみたき青糸瓜	下嶋四万歩
	枕辺に煙る殺し屋渦蚊取 早苗饗(さなぶり)の焦らし焦らさるストリップ	壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	暑短に咲きつつ散りぬ夏椿	壽命秀次
	素通りは出来ぬ土用鰻食ふ 己が身の不幸を嘆く生身魂	白井道義 白井道義
【佳作】	女房の尻に敷かれし踊の輪	白井道義
	ウリの曲がりがなんだ 許してやれよ どうしても蟬の様にはいかない心の底	鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	箱庭に大きく作る自宅かな 山寺の法話は無料法師蟬	高田敏男 高田敏男
	真打のとちつて楽し村芝居	高田敏男
	白金の一等地に住む青蜥蜴 パソコンに任せ大暑に対処する	高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	道の端固まっている我と蛇	高橋きのこ
	墓参りも命がけなる猛暑かな 節電も鳴りを潜める猛暑かな	高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】	「お盆玉」と言ふらし夏のお小遣い	高橋マキコ

	椅子禅の気の安らかむ半夏かな	田中 勇
【佳作】	蓮の花幻想曲を聞かまほし	田中 勇
	初ひぐらしふつと身体が宙に浮く	田中早苗
	峽畑は運動場なり猪の足	田中早苗
【佳作】	猿軍団宴最高西瓜畑	田中早苗
	秋茄子で嫁の点数稼ぎけり	田村米生
	梶の葉に本音を書きて沙汰を待つ	田村米生
【佳作】	冷房の効きすぎる店退参す	津田このみ
	炎天を逃げ地下街に避難せる	津田このみ
	万歩計数増やさんと熱中症	津田このみ
【佳作】	冷房を強にして観る甲子園	飛田正勝
	お裾分け出来る甘さや百匁桃	飛田正勝
	鬼貫のむかしを凌ぐ暑さかな	飛田正勝
	土掘ればみみず慌てもぐりけり	中井 勇
	すててこやメダボ親父のユニホーム	中井 勇
【佳作】	大口を広げた空の大花火	中井 勇
【佳作】	人間の干物出来さうこの暑さ	新島里子
	この頃や兜虫さへたかはず	新島里子
【佳作】	死ねば極楽生きて極暑の真っ只中	西をさむ
	川上の恵み授かる青田かな	西をさむ
	三秒の差異一キロの遠花火	西をさむ
【佳作】	風呂前にビールのチェック怠らず	花岡直樹
	猛暑日に気温体温競いおり	花岡直樹
	山の神台風またもすくい投げ	花岡直樹
【佳作】	夏座敷肉塊ごろとろがれる	原田 曄
	金魚鉢半分ノラの猫覗く	原田 曄
	託卵の育ち過ぎたる時鳥	ひがし愛
	夏草に埋もれてをり捕鯨船	ひがし愛
【佳作】	江戸の風呼んで峠の小判草	ひがし愛
【佳作】	冷房の薩摩の守の市バスかな	久松久子
	冷房の温度喧嘩も今のうち	久松久子
	手花火に興じ揚花火見はぐる	久松久子
	がんばれるアイスクリームのご褒美に	日根野聖子
	ご飯粒茶碗に残さず終戦日	日根野聖子
【佳作】	風鈴やため息かけて鳴らさうか	日根野聖子
	実梅漬く熟女社長の額皺	藤岡蒼樹
【佳作】	掬はるる夜店盥の和金屑	藤岡蒼樹
	コンビニ店群るるニートの夜這星	藤岡蒼樹
	布哇庵と名付け独りでする昼寝	藤森荘吉
	端居しておいしい話してをりぬ	藤森荘吉
	ありのままと言はれなくても蟻のまま	藤森荘吉
	次々に静かに開き遠花火	藤原セツ子
【佳作】	法要の読経の伴奏蝉時雨	藤原セツ子
	木漏れ日の星と輝く泉かな	藤原セツ子

	梅雨明けも心は晴れぬ国首さま 真夏日や廃墟遺産の孤独かな	細川岩男 細川岩男 細川岩男
【佳作】	球児たち泣いて笑って夏が行く	
	勉強の暗記は苦手ソーダ水 出すぎない事を信条冷奴 クレオパトラ我も見上げた夏の星	細川寛子 細川寛子 細川寛子
【佳作】	出すぎない事を信条冷奴 クレオパトラ我も見上げた夏の星	
	君おもひ秋の日本に時合わせ 暑気中り我が身と世間遮断せり	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】	祖父の靴真白に磨かれ総会へ	
	古書店の秘密の部屋に扇風機 憎き人迎へに大目の水を打つ	松井まさし 松井まさし
【佳作】	古書店の秘密の部屋に扇風機 憎き人迎へに大目の水を打つ	
	夏富士を遥拝して店ひやかして もろこしの口で挨拶祭りの夜	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	莫藪に昼寝これぞ日本遺産かな	
	雲行くと棚田一枚ずつの秋 川覗く人に加はる初秋かな 秋めくよ雲に人恋ふ匂ひあり	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	川覗く人に加はる初秋かな 秋めくよ雲に人恋ふ匂ひあり	
	薬用と知りても怖い鳥兜 冷奴言ひたいことはあとまはし	百千草 百千草
【佳作】	薬用と知りても怖い鳥兜 冷奴言ひたいことはあとまはし	
	炎昼や道徳といふ一枚も 蝉時雨生きていることの騒がしさ	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	脱がされて疲れはてたる競泳着	
	ピカドンの風化を言へり原爆忌 小さい秋のちの字もなくて秋立てり	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	ものごとに凝る人もまた熱中症	
	蝉時雨なかに音痴の二三匹 忘れ物取りに来たよな帰省かな	谷澤紀男 谷澤紀男 谷澤紀男
【佳作】	ごきぶりを年の功にて追ひつめる	
	進物に日本香堂盆用意 天国へ片道切符天の川 天高し高原列車天下一	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	天国へ片道切符天の川 天高し高原列車天下一	
	賽の目に丁半の出で西瓜切る 納得の目がものを言ふ竹婦人	柳 紅生 柳 紅生
【佳作】	納得の目がものを言ふ竹婦人	
	孫落語喝采のごと蝉しぐれ 隠れ猫グリーンコスモスのれん中	柳澤京子 柳澤京子
【佳作】	孫落語喝采のごと蝉しぐれ 隠れ猫グリーンコスモスのれん中	
	薄れゆく思い出証す日焼跡 しまなみの潮の香残す日焼跡	山下正純 山下正純
【佳作】	餌やりに礼を申すか蝌蚪の足	山下正純

風船かすらもつれもつれて玉吊す 鬼灯の腰をのばさむ添へ木当て 【佳作】 颱風来にわか庭師となつてゐる	山本けい子 山本けい子 山本けい子
手で洗ふ小物がふえる夏休 【佳作】 墓地に生れ墓地に末枯れる曼珠沙華 人通りさすがに絶えて蚯蚓鳴く	山本 賜 山本 賜 山本 賜
軍隊の序列の残る敬老会 【佳作】 遠き恋苦笑してをり敬老会 年一度敬の字つけて敬老日	横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎
強清水教師ぐいぐい喉ぼとけ 向こうずね打つて目覚める生身魂 【佳作】 重いから乗せられないと茄子の馬	吉原瑞雲 吉原瑞雲 吉原瑞雲